

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 三重県
都道府県 三重県
対象地域 四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、
伊勢市、多気郡
対象品目 イチゴ(施設)



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減(水田からのメタンの排出削減)	温室効果ガスの削減(プラスチック被覆肥料対策)
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減(バイオ炭の農地施用)	温室効果ガスの削減(省資源化)
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減(石油由来資材からの転換)	温室効果ガスの削減(その他)

目指す姿

親からの病害虫感染リスクが低減でき、増殖効果が高く育苗期間が短縮できる種子繁殖型品種の導入とアザミウマ類防除のための天敵および防虫ネットの活用により、化学農薬及び化学肥料の使用量の削減が可能な栽培体系を構築する。

現在の栽培体系

育苗方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		5月
従来の育苗	親株定植	親株管理	親株管理	ランナー受けによる 子苗育苗	—	本圃定植	—	収穫	→	

グリーンな栽培体系

育苗方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		5月
種子繁殖型品種 による二次育苗		播種 (一次育苗)	(一次育苗)	鉢上げ (二次育苗)	(二次育苗)	本圃定植	—	収穫	→	
種子繁殖型品種 による本圃直接 定植		播種 (一次育苗)	(一次育苗)	(一次育苗)	本圃定植 (本圃育苗)	(本圃育苗)	—	収穫	→	
天敵・資材等の 導入	—	—	—	—	—	防虫ネット展張 UV-Bライト点灯	—	→	→	
						—	—	《パターン1》 11月+2月 ククメリスカブリダニ放飼 《パターン2》 2月+3月 アカメガシワクダアザミウマ放飼		

※ 「播種」、「一次育苗」については、業者に依頼し購入する方法と生産者自らが行う方法の2パターンがある。
業者に依頼した場合、 の作業を省略することが可能となる。

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4		目標R12	備考
(参考)対象品目の作付面積(ha)	45	▶	45	
グリーンな栽培体系の取組面積(ha)	—	▶	4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積(ha)	0.1	▶	4	
省力化に資する技術の取組面積(ha)	—	▶	4	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

<技術の内容・効果>

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	栄養繁殖型品種による育苗	▶ 種子繁殖型品種の導入・育苗	親からの感染リスクの低減及び育苗期間の短縮による化学農薬・化学肥料の使用量の削減
省力	栄養繁殖型品種による育苗	▶ 育苗の分業化に向けた県内種苗会社による一次育苗したセルトレイ苗の生産	イチゴ栽培農家における育苗期間の短縮化
省力	栄養繁殖型品種による育苗及び花芽分化確認後の定植	▶ 種子繁殖型品種の本圃直接定植による安定的な花芽分化誘導に向けた育苗管理	イチゴ栽培農家における育苗作業及び本圃定植時間の削減
環境	化学農薬による防除	▶ ・天敵資材及び防虫ネットの導入 （アザミウマ類対策） ・UV-Bライトの導入（うどんこ病対策）	化学農薬使用回数の削減
省力	手作業による収穫	▶ 自動収穫機の導入	収穫時間短縮による省力化

<技術の効果の指標・目指すべき水準>

※実証により効果を確認できたもののみを記載

分類	指 標	現 状	目指すべき水準	備 考
省力	育苗期間・時間の短縮	100% ▶	74%（苗購入） 81%（自家播種）	4月～6月の3か月にわたる育苗期間を削減
環境	育苗期間中の化学農薬・肥料使用量の削減	— ▶	親株及び5月～6月に採苗する子苗に対して使用する化学農薬・化学肥料使用量分を削減	実証農家への聞き取り
環境	UV-Bライトによる本圃栽培期間中のうどんこ病に対する化学農薬・肥料使用回数の削減	7剤 ▶	2剤	当県慣行栽培基準と比較

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県独自の種子繁殖型品種の供給体制を構築することができたが、今後のさらなる現地導入に向けては、種子繁殖型品種の導入によるコスト削減と収益向上の効果を明らかにする必要がある。
また、セルトレイ苗を直接圃場に定植する直接定植法による苗作り期間のさらなる短縮、天敵やその他資材の効果的な利用により、化学農薬・化学肥料の使用削減を進めていく。

関係者の役割

関係者名	県中央農業改良普及センターJA（地域普及センター） JA全農みえ	栽培農家	苗生産販売農家	県農業研究所
役割	・事業運営、検討会の開催 ・関係機関との調整 （・実証圃運営管理、調査）	・販売に係る調整	・実証圃栽培管理 ・管理記帳 ・苗実証圃栽培管理 ・販売苗管理	・検討会への参画 ・実証圃運営等への助言

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（ha）	備 考
該当なし			

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

該当なし

その他

該当なし
